

心をつなぐ、 はじめの一歩

解説書

特別扱いもハラスメント?
～ジェンダー・ハラスメント～

(場面) 製造部の橋本は、新卒の女性エンジニアに対して、良かれと思って男性社員とは異なる対応を取ってしまう。

(ポイント) ジェンダー・ハラスメントとは性別に対する固定観念・役割分担意識に基づいた嫌がらせや差別の対応のこと。2022年の世界経済フォーラムによると、各国の男女格差を数値化した「ジェンダーギャップ指数」において、日本は世界全146ヶ国中116位。「ジェンダー後進国」の状況にあると言えます。良かれと思っての一言が、誰かにとっての不公平さを生んでいませんか?発言する前に、一度立ち止まって考えてみましょう。

やる気がないわけじゃありません!
～発達障害・多様な働き方～

(場面) 相手の気持ちを察するのが苦手な佐久間は徐々に職場で孤立。同僚の林が尋ねると、自身が発達障害であることを告げる。

(ポイント) 映像では同僚の林が間に立ち、その人にとての困りごとは何か、どうすれば働きやすくなるか、得意なことを伸ばせるか、部署内で状況を共有することで周りの人たちが考え、動き出して事態は好転していきました。発達障害に関わらず、人はそれぞれ目に見えにくい特性を持つもの。見えないからと困りごとをそのままにせず、積極的に関わり合うことで、職場全体の働きやすさにつながるのではないかでしょうか。

自分の周りにいないから無関心?
～部落差別～

(場面) 採用面接で水谷が応募者に、本人の適性・能力に関係のない不適切な質問をしてしまい、人事部の吉住が謝罪する。

(ポイント) 応募者の基本的人権を尊重することは、公正な採用選考の基本です。部落差別をはじめとしたさまざまな人権課題。その差別に気づきながらも、無関心を装う人もいるのではないでしょうか。「差別を黙認することは差別を助長する」ということを理解し、すべての人の人権が尊重される世の中をめざすために、人事部だけではなく職場で働く仲間、私たち一人一人が主体的に取り組んでいくことが重要です。

いつもうんざり「日本語お上手ですね」
～外国人～

(場面) 日本で40年暮らす営業部のトーマスに対して、深田は勝手な決めつけで「日本語お上手ですね」と発言してしまう。

(ポイント) マイクロアグレッションは直訳すると小さな攻撃。差別や相手を傷つけるつもりはなくとも心に影を落とす言動や行動のことを言います。そしてそれは社会のあらゆるところに存在し、無意識の偏見や、理解の無さから生まれます。まずは相手を一人の人間として見ること。その上で、発言の前に相手を傷つけないか立ち止まって一呼吸置いて考えることが大切です。

私は私らしく生きたいのに
～性的マイノリティ～

(場面) 各部署の取材から広報部に戻ってきた深田は、岡崎から自分が性的マイノリティであるとカミングアウトを受ける。

(ポイント) 性的マイノリティの当事者も含め、誰もが働きやすい職場環境を整備することに企業の関心が高まりつつある一方で、当事者の直面する困難は周囲には見えにくいため、企業による取り組みはなかなか進んでいないと言われています。「ありのままの私」で働くことができる職場をめざして、働く人一人一人が性的指向・性自認についての理解を深めることができ、「心をつなぐ、はじめの一歩」に繋がるかもしれません。

心をつなぐ、 はじめの一歩

ワークシート

特別扱いもハラスメント?
～ジェンダー・ハラスメント～

固定化されたジェンダーの枠組みはどんなものがあるでしょうか？そしてどう取り除けば良いか？考えてみましょう。

やる気がないわけじゃありません！
～発達障害・多様な働き方～

もしもあなたが部下または同僚から同様の相談を受けた場合、どうしたら働きやすくなるか考えてみましょう。

自分の周りにいないから無関心?
～部落差別～

人権課題などを何でも言い合える場を作るためには、どのようなことが必要でしょうか？

いつもうんざり「日本語お上手ですか」
～外国人～

日常生活におけるマイクロアグレッショնは、映像中以外にもどのようなものがあるでしょうか？挙げてみましょう。

私は私らしく生きたいのに
～性的マイナリティ～

あなたがあなたらしく生きるために、どのような困りごとがあり、それを取り除くためには何が必要でしょうか？